

## 平成30年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	ほくほく線沿線の駅を中心とした芸術文化活動による地域の活性化 —うらがわら駅と大池いこいの森駅を中心に—
2 事業推進者等	(責任者職名・氏名) 教授・阿部靖子 准教授・五十嵐史帆
3 学外の連携機関等	(連携機関等名) 岩室の会, NPO 法人里やま学校, 南城町4丁目町内会 (担当者職名・氏名) 岩室の会事務局(舟橋) 里やま学校事務局(坂井)
4 事業の趣旨・目的	上越市頸城区, 浦川原区にある「ほくほく線」沿線の駅(大池いこいの森駅・うらがわら駅・虫川大杉駅など)を中心とした地域の活性化を目的に, 「アートの力を生かした活動」を通して, 地域住民(子ども・大人), 訪問者, 学生, アーティスト等の交流の場をつくる活動を行う。
5 事業活動報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大池いこいの森駅隣接の「大池いこいの森 里やま学校」でのピオトープや周りの自然を生かしたワークショップの実施(年2回)</li> <li>・うらがわら駅, 虫川大杉駅のステーションギャラリーを会場とする作品展示(年1回, 期間約2ヶ月) 参加者: 本学学生 6名 岩室の会, 里やま学校関係者 約10名 小学生・中学生・地元住民 約20名</li> </ul> <p>その後, 作品を虫川大杉駅の壁にはめ込み, 駅を利用する人々が鑑賞できるように設置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は, 当初計画にはなかったが, 上越市内の町内会の子どもに向けたワークショップとして, 缶バッチづくりを実施した。 参加者: 本学院生2名 町内会 児童・園児・大人 約30名</li> </ul>
6 本事業で得られた成果	<p>アートとデザインの力を生かした活動は, 将来教員となる学生にとって美術教育の実践力をつける意味で重要であり, 院生らは積極的に子供たちと関わり, 美術活動を通じた教育のあり方について学ぶことができた。そして, 参加した子供たちも充実した時間を経験することができ, 地元の良さを認識し, それを表現することができた。ほくほく線沿線の駅に作品を設置することで, 駅の活性化と, 地元と訪問者の接点になる場の提供が行われ, 地元の活性化に貢献したと考える。また, 毎年行っている里やま学校のワークショップでは, 地域の子供や大人が自分たちの自然豊かな環境を再発見し, その自然の材料を使って作品を制作するという点で, 教育と地域両方に大きく貢献している。</p> <p>さらに, 本年度は, 町内会という最も身近な地域団体活動の一環として, 子供たちにモノをつくる喜びを体験させることができたことは, 大きな成果として考えられる。</p>
7 その他 (成果物等の名称)	